

## 4 地方名調査結果について

### (1) 共通

#### 1) じゃんけん

##### ① じゃんけん (総称)

ア 採録した呼び方

- ・ 地方名 カンモンパ、カンモンヤ、ジッケン、ジャイケン、ショーショ、ジンケン、ダー、ダーダー、チッケン、チッチャー、チッチャパー、チョー、チョーホ、チンケン、チンケンポ、チンショ、チンリンホイ、デシデシ、デッチャン、ヤッキン
- ・ 一般的な共通名 ジャンケン

イ 遊びの話

全集落

ウ 遊びと呼び方の状況

子ども達がかくれんぼなどのオニを決める際などに使う方法で、三すくみの出し手（グー、チョキ、パー）を掛け声に合わせて出すことで公平に物事を定めていくためのものである。

本手法の呼び方としては、「チッケン」や「チンケン」をはじめ計21種を採録した。

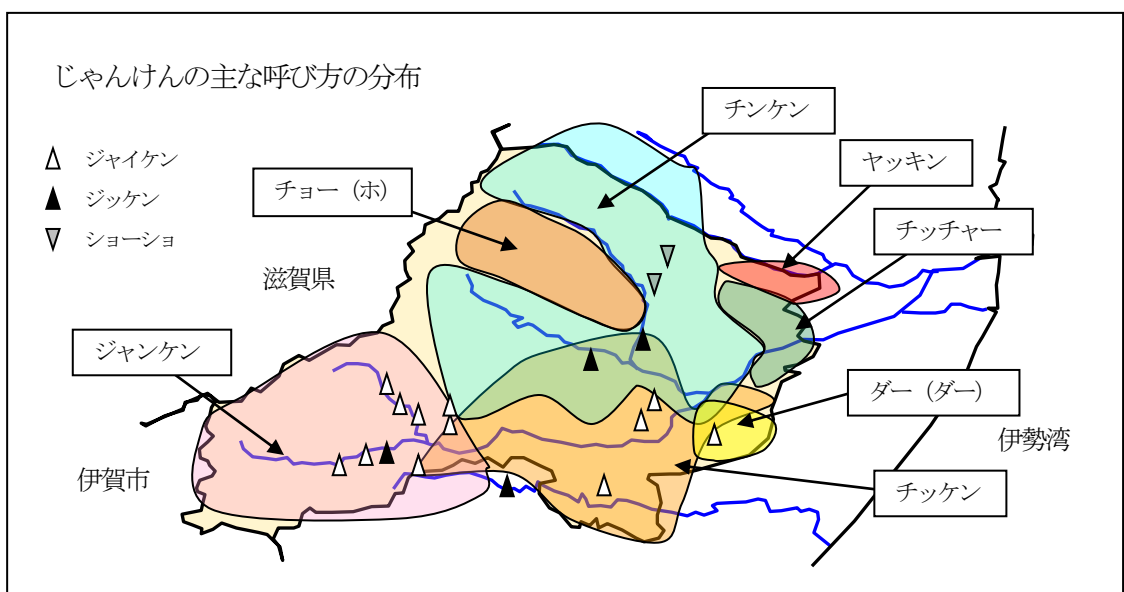
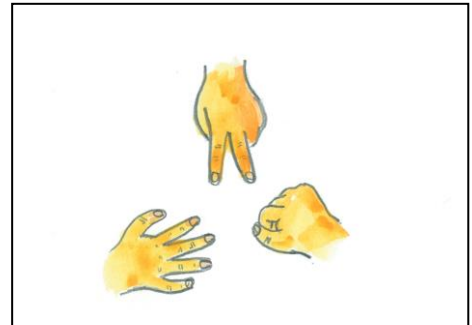
郡内全域で共通名である「ジャンケン」が女兒を中心に使われていたようである一方、男児を中心に地域固有の呼び方が使われ、関町地区から国府、昼生地区にかけての広い地域で「チッケン」、郡北部を中心に「チンケン」と呼ばれたほか、石薬師地区から牧田地区では「チッチャー」、庄内地区で「チョー（ホ）」、国府地区で「ダー」や「デジデジ」、久間田地区で「ヤッキン」がその掛け声とともにみられた。

その他、「ジャイケン」を坂下地区から鈴鹿川沿いに約10集落から採録し、また「ショーショ」が深伊沢地区、「ジッケン」等が川崎地区等の一部の集落にみられた。

なお、隣接地域として調査を行った津市高野尾町では「オッテン」、鈴鹿市御菌町では「デンヤン」、また甲賀市土山町山女原では「チンリンサイ」を採録した。

エ その他

地域固有の呼び方はその掛け声とともに、共通名の「ジャンケン」の一般化に伴い、主に戦前から戦後にかけて、遅くとも昭和40年前後にはほぼ使われなくなったようである。



## ② 掛け声 (全体)

### ア 採録した呼び方

- ・ カンモンパ (-トックリマメホイ - ホイホイホイ - チンケンホイ)
- ・ カンモンヤ - アイコデシヨ
- ・ ジッケンホイ - アイコデシヨ
- ・ ジャイケンシヨ (又は ホイ、ポイ、ポン) - アイコデシヨ
- ・ ジャンケンシヨ (又は ホ、ポ、ホイ、ポイ、ポン) - アイコデシヨ (又は ホイ)  
ジャンケンシヨ (又は ポン) - アイコデシヨ - ショッショデシヨ  
ジャンケンポ (又は ポイ) - アイコデシヨ - コーノセンコマケテモゴメン  
ジャンケンポン - オチャノコサイサイ  
ジャンケンポンヨ - アイコデシヨ (-マダマダダメヨモイチド)  
ジャンケンポンヨ - アイコデポンヨ - モヒトツアイコデポンヨ  
ジャンケンスギノコドンジャラホイ
- ・ ショーシヨ - アイコデシヨ
- ・ ジンケンホイ - アイコデシヨ
- ・ ダー 又は ダーダー
- ・ チッケンシ (又は ショ、パー、ポ、ホイ、ポイ、ホス、ポン) (-アイコデシ (又は ショ、ホイ、ホス))
- ・ チッチャーパー (又は ホイ) - アイコデシヨ
- ・ チョーホ - アイコデシヨ (又は コデホ、シヨ、ホ)
- ・ チンケンシヨ (又は ポ、ホイ、ポイ、ポン) - アイコデシヨ  
チンケンシヨ - アイコデシヨ - カンモンパ  
チンケンポン - アイコデシヨ - ドッコイシヨ
- ・ チンシヨ - アイコデシヨ
- ・ チンリンホイ - アイコデシヨ
- ・ デジデジ
- ・ デッチャンホイ - アイコデシヨ
- ・ ヤッキン (モッテ) シヨ - アイコデシヨ

### イ 掛け声の状況

本手法に使う掛け声としては、「チッケンホイ - アイコデシヨ」や「チンケンシヨ - アイコデシヨ」をはじめ17種の掛け声で始まる計56種を採録した。

郡内全域で共通語の掛け声である「ジャンケンポン - アイコデシヨ」等が女兒を中心に使われていたが、じゃんけん自体の地域固有の呼び方(①参照)に合わせて、「チッチャーパー - アイコデシヨ」、「チョーホ - アイコデシヨ」、「チンケンホイ - アイコデシヨ」等の掛け声が各地域でみられた。こうした固有の掛け声は男児を中心に使われたようであるが、深伊沢地区で採録の「ショーシヨ - アイコデシヨ」は女兒が使用した言葉であるという。

また、「デジデジ」や「ダー」のように、「ポン」等の出すタイミングを合わせる言葉がはっきりしない掛け声のほか、「カンモンパ」では「カンモンパ トックリマメホイ ホイホイホイ チンケンホイ」の三つの切れ目でそれぞれ出し手の決めがあり、最後に勝負する仕方もあったという。

一方、じゃんけんの手を出すタイミングを合わず言葉は、同じ集落内でも人により異なるようで、シ、シヨ、ホ、ポ、ホイ、ポン等の回答があったほか、「チッチャー」ではパーという出し手のひとつを使う場合や、出し手に応じて言葉を変える(グー、チー)場合もみられた。

なお、隣接地域として調査を行った甲賀市土山町山女原では「チンリンサイ - ドンチキチン - アイコデシヨ」、鈴鹿市御園町では「デンヤンドス - アイコデシヨ」を採録した。

## ※1 掛け声 (区分)

### ア 採録した内容

#### a) 第一掛け声

- ・ カンモンパ (トックリマメホイ ホイホイホイ チンケンホイ)
- ・ カンモンヤ
- ・ ジッケンホイ
- ・ ジャイケンシヨ (又は ホイ、ポイ、ポン)
- ・ ジャンケンシヨ (又は スギノコドンジャラホイ、ホ、ポ、ホイ、ポイ、ポン、ポンヨ)
- ・ ショーシヨ
- ・ ジンケンホイ
- ・ ダー (又は ダーダー)
- ・ チッケンシ (又は ショ、パー、ポ、ホイ、ポイ、ホス、ポン)
- ・ チッチャーパー (又は ホイ)
- ・ チョーホ
- ・ チンケンシヨ (又は ポ、ホイ、ポイ、ポン)
- ・ チンシヨ
- ・ チンリンホイ
- ・ デジデジ
- ・ デッチャンホイ
- ・ ヤッキン (モッテ) シヨ

#### b) 第二掛け声

- ・ アイコデシ (又は ショ、ホ、ホイ、ホス、ポンヨ)
- ・ アイシヨ
- ・ アイホ
- ・ オチャノコサイサイ
- ・ トックリマメホイ

#### c) 第三掛け声

- ・ カンモンパ
- ・ コーノセンコマケテモゴメン
- ・ ショッショデシヨ
- ・ ドッコイシヨ
- ・ ホイホイホイ
- ・ マダマダダメヨモーイチド
- ・ モヒトツアイコデポンヨ

#### d) 第四掛け声

- ・ チンケンホイ

### イ 掛け声の状況

ジャンケンの掛け声について、段階毎に区分すると、第一掛け声として17種(とその変形)、第二掛け声として5種(とその変形)、第三掛け声として7種、第四掛け声として1種を採録した。

なお、同じ出し手であった場合の第二掛け声の「アイコデシヨ」等については、その有無が回答者によって異なったり、記憶がはっきりとしない場合があり、共通語である「ジャンケンポン-アイコデシヨ」の使用の一般化に伴いその利便性から同様に使われるようになったり、又は後天的に記憶に刷り込まれていった可能性が残る。

## ※2 組分けじゃんけん

### ア 採録した内容

#### a) 出し手

- ・ グーとパー (多くの集落)、グーとチョキ (一部の集落)

#### b) 掛け声

- ・ オコリコナーシノグートパー・ グートパー (- アイコデシヨ)
- ・ サーヤロカイヨイシヨ

### イ 遊びの話 多くの集落

### ウ 呼び方の状況

子ども達がじゃんけんの三すくみの出し手(グー、チョキ、パー)のうち二つを使い、集団を二つの組に分ける際に使う方法である。

本手法としては、「グーとパー」と「グーとチョキ」の計2種を採録した。

郡内全域で「グーとパー」が使われたほか、1集落でのみ「グーとチョキ」がみられた一方で、組分けじゃんけんの有無が同じ集落内でも回答者により異なり、当時、一般化していたものかははっきりとしない。

なお、本じゃんけんの掛け声については、「グートパー」のパーの声で一斉に出すのが一般的であったようであるが、国府地区で「オコリコナーシノグートパー」を採録した。

## ※3 出し手の呼び方

### ア 採録した内容

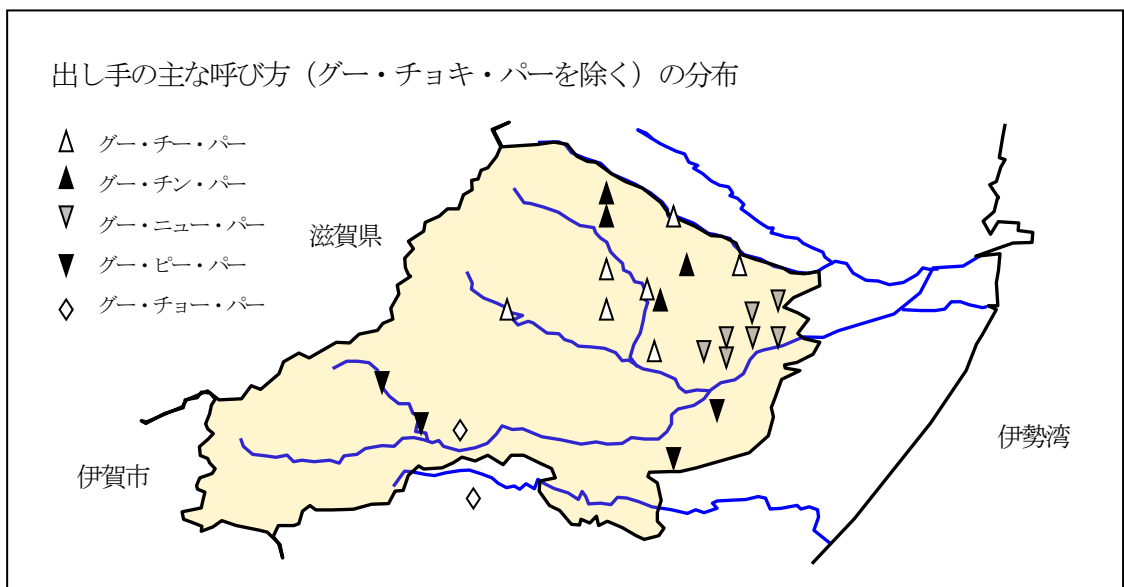
- ・ グー・キー・パー      ・ グー・チー・パー      ・ グー・チョー・パー
- ・ グー・チョキ・パー      ・ グー・チン・パー      ・ グー・ニュー・パー
- ・ グー・ハサミ・パー      ・ グー・ピー・パー

### イ 呼び方の状況

じゃんけんの出し手であるグー、チョキ、パーの呼び方について、各地区の一部で調査をしたところ、「グー・チー・パー」や「グー・チン・パー」をはじめ計8種を採録した。

郡内全域で共通名の「グー・チョキ・パー」が使われた一方で、チョキは「ハサミ」のほか、地域によって「チー」、「チョー」、「チン」、「ニュー」、「ピー」等と呼ばれた。

こうした呼び方は主に男児によりされたようであり、地域的には、坂下地区と国府地区で「グー・ピー・パー」、高津瀬地区から石薬師地区では「グー・ニュー・パー」、深伊沢地区から椿地区では「グー・チン・パー」、また庄内地区と久間田地区では「グー・チー・パー」を採録したほか、関町中心で「グー・チョー・パー」がみられた。



## 2) 片足跳びの遊び

### ① 片足跳び

ア 採録した呼び方

- ・ キンキン、ケンケン、ケンケンアソビ、ケンケントビ

イ 遊びの話 全集落

ウ 遊びと呼び方の状況

片足で飛び跳ねること、又はそのようにして進んだりする屋外での遊びであるが、遊び方の条件の一つとして使われることも多い。

本遊びの呼び方としては、「ケンケン」や「キンキン」をはじめ計4種を採録した。

郡内の大部分の地域で「ケンケン」と呼ばれたほか、椿地区から深伊沢地区で「キンキン」がみられた。



### ② けんぱ

ア 採録した呼び方

- ・ 片足跳びから キンキンパ、キンパ、キンパッパ、ケンケンパ、ケンパ
- ・ 遊びの歌から チーチッパ、チーチーパ、チーチーパッパ、チッチッパ、チッチッパー、チッチッパッパ、チッチーパ、チッチパッパ、チッチーパッパ、チッパッパ、チーパー、チーパッパ、チンチンパ、チンチンパッパ、チンパッパ

イ 遊びの話 全集落

ウ 遊びと呼び方の状況

地面に円やマス目、三角等の枠を連ねて描き、歌に合わせて片足跳びと両足着地とを繰り返す屋外での遊びである。単に跳ぶだけでなく、石を投げそれが入った枠内は投げた人は入ることができるが、他の人は飛び越えなくてははいけないといった遊び方などがされていた。

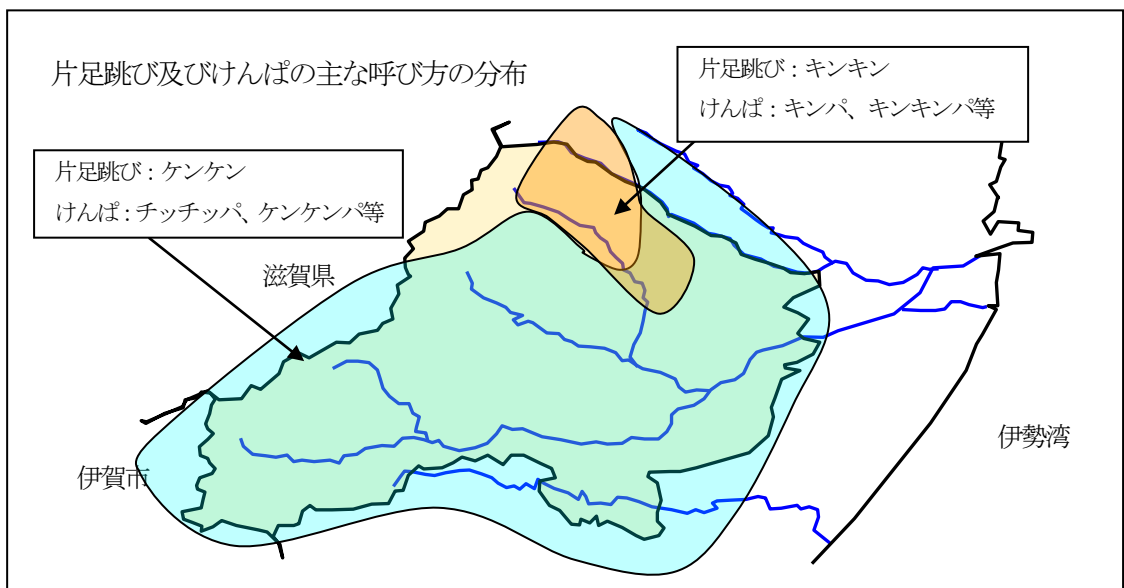
本遊びの呼び方としては、「チッチッパ」や「ケンケンパ」をはじめ計20種を採録した。

郡内の大部分の地域で主として「チッチッパ」や「ケンケンパ」等と呼ばれたほか、椿地区から深伊沢地区では「キンパ」や「キンキンパ」等がみられた。



エ その他

「チーチーパッパチーパッパ-チノチノパ」等と歌いながら遊んだという。



### 3) おしくらまんじゅう

ア 採録した呼び方

- ・ 地方名 オシアイゴンボ、オシクラゴンボ
- ・ 一般的な共通名 オシクラマンジュー

イ 遊びの話 全集落

ウ 遊びと呼び方の状況

多くの子ども達が歌に合わせて勢いをつけ互いの背中で押し合（い体を温め合）う、主に冬季に行われた屋外での遊びである。

本遊びの呼び方としては、「オシアイゴンボ」や「オシクラゴンボ」をはじめ計3種を採録した。

郡内全域で共通名である「オシクラマンジュー」や「オシアイゴンボ」と呼ばれたほか、「オシクラゴンボ」も多くみられた。

エ その他

白木町では「オシアイゴンボ押されて泣くな押されて泣くのは弱虫毛虫」と歌ったという。



### 4) 肩車（かたぐるま）

ア 採録した呼び方

- ・ 肩に馬乗り カタウマ、カタマ、カタンマ
- ・ 肩に乗せる カタノシ
- ・ 共通名 カタグルマ
- ・ その他 カタクマ、カタグマ、カタクマチョーチン、タカウマ

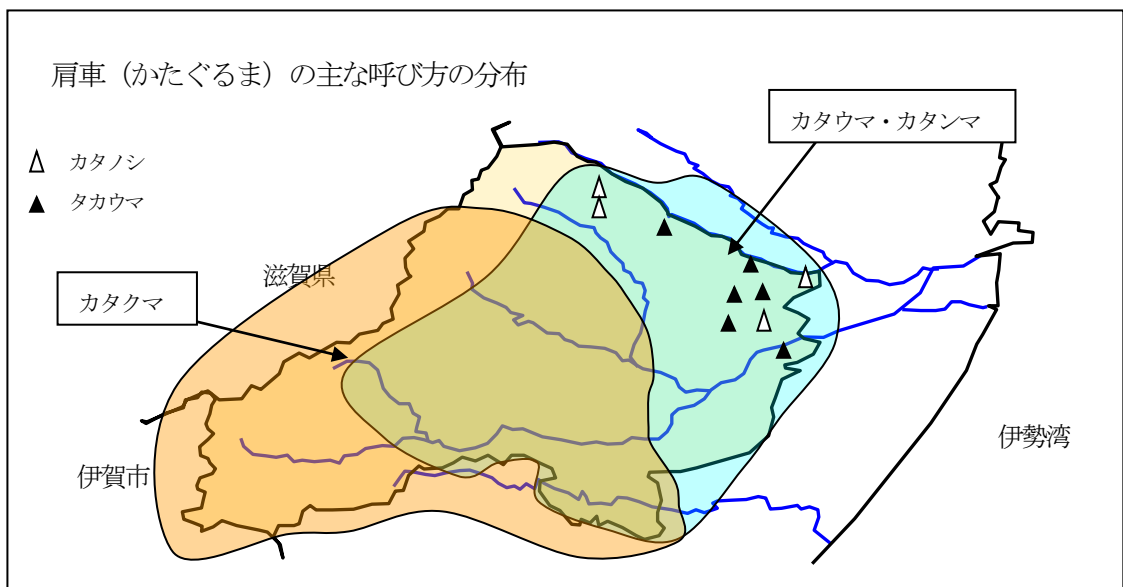
イ 遊びの話 全集落

ウ 遊びと呼び方の状況

子どもの遊びというより、大人が子どもを肩の上に首を挟む形で座らせ、担ぐ行為をいう。本遊びの呼び方としては、「カタウマ」や「カタクマ」をはじめ計9種を採録した。

郡東部から郡中部にかけて「カタウマ」又は「カタンマ」と呼ばれ、また隣接地域の甲賀市土山町や伊賀市柘植町を含め郡西部から郡中部にかけて「カタクマ」と呼ばれる傾向がみられたほか、郡内全域で共通名である「カタグルマ」とも呼ばれた。

その他、郡東部である石薬師地区を中心に「タカウマ」が、椿地区や鈴鹿市上野町、四日市市南小松町で「カタノシ」がみられた。



## 5) 鬼ごっこ

### ① 鬼ごっこ

#### ア 採録した呼び方

- ・ 地方名 オニゴト、オニトリ、オワエアイ、オワエガチ、オワエゴ、オワエゴク、オワエゴケ、オワエゴッコ、オワエゴト、オワエッコ
- ・ 一般的な共通名 オニゴッコ

#### イ 遊びの話

全集落

#### ウ 遊びと呼び方の状況

一人のオニと残りの子に分かれ、オニは子が逃げるための時間として予め定められた数を数えた後に逃げた子を追いかけ、捕まえてオニが入替わるといった屋外での遊びである。

本遊びの呼び方としては、「オワエゴッコ」や「オワエガチ」をはじめ計11種を採録した。

郡内全域で共通名である「オニゴッコ」とともに「オワエゴッコ」とも呼ばれたほか、郡北東部を中心に地域毎に固有の呼び方がみられた。

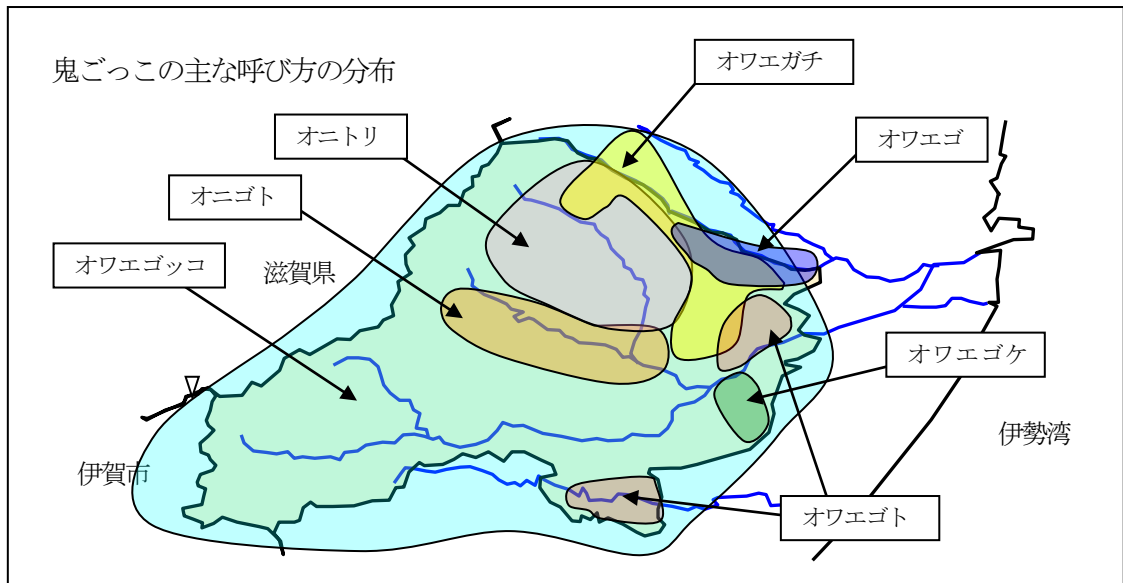
安楽川流域の川崎地区から野登地区にかけて「オニゴト」、庄内地区から深伊沢・椿地区で「オニトリ」、久間田地区で「オワエゴ」、昼生地区と石薬師地区で「オワエゴト」、国府地区の一部で「オワエゴケ」と呼ばれたほか、高津瀬地区から久間田・椿地区にかけて「オワエガチ」がみられた。

なお、隣接地域として調査を行った甲賀市土山町では「オニツカミ」を採録した。

#### エ その他

鬼ごっことかくれんぼは、呼び方において区別はあったものの実際の遊びにおいて両者にはっきりとした区別がない集落もみられた。

また、子に逃げ隠れる時間を与えるためにオニが数を数える方法（カウントの仕方）としては、数字によるもののほか当時の男児の間ではほぼ全域で「ボンサンガヘヲコイタ」も使われていた。







## 6) 選び歌

### ア 採録した歌

- ・ アッチニシヨオカコッチニシヨオカジー  
バーバーノユウトオリ
- ・ ジーバーバードッチニシヨ (テンジンサンノユウトオリ 又はフークガアッタラコッチニシヨ)
- ・ ジーチャンバーチャンドッチニシヨ (又は ドレニシヨ)
- ・ チューチュータコカイナ ドレニシヨウオカナ
- ・ ドレニシヨオカナ (又は ドチラニシヨオカナ。 ダレニシヨオカナ) (以下「～」で表記)
- ・ ～アタリガホホダニ
- ・ ～ウラノカミサマノユウトオリ
- ・ ～ウラノジューバーサン (又は シンバーサン。 ジンバーサン) ニキイタラヨクワカル (又は ジンバーサンノユウトオリ)
- ・ ～ウラノテンジンサンニキイタラ (又は キケバ) ヨクワカル
- ・ ～エンマサマニキイタラヨクワカル (又は サンガキイテゴザル。 サンガミテゴザル。 サンガミテルヨ。 サンニオコラレル。 サンニキイタラヨクワカル。 サンニホメラレテ (モヒトツオマケニドッコイシヨ)。 サンノマエデホメラレテ ウントコドッコイシヨ。 サンノユウトオリ)
- ・ ～カミサマノユウトオリ (又は サンノユウトオリ)
- ・ ～ (又は トチラガヨイカ) ケッケッケ (又は コレ。 ポイ)
- ・ ～ジーバーバーニキイタラヨクワカル (又は ジーチャンバーチャンノユウトオリ。)
- ・ ～テンジンサマニキイテミヨ (又は サマノユウトオリ。 サンニキイタラヨクワカル。 サンニキコオカナ。 サンニマカシヨ。 サンノホソミチヤ。 サンノモミジ (ナリテンナノハニヨーニオタ)。 サンノユウトオリ (ニシヨオカナ))
- ・ ～テンノカミサマオシエテクダサイ (又は ニキイタラヨクワカル。 ノユウトオリ)
- ・ ～ドレミファソラシド
- ・ ～ムラノテンジンサンノユウトオリ



### イ 遊びの話

#### 全集落

### ウ 遊びと歌の状況

子ども達が複数のもの中から一つを選ぶ際に使う文言(歌)である。

本選び歌としては、「ドレニシヨオカナ」や「ドレニシヨオカナ テンジンサマノユウトオリ」をはじめ計49種を採録した。

とりわけ女兒がよく使ったようで、郡内の多くの集落で「ドレニシヨオカナ」又は「ドチラニシヨオカナ」に続ける形で「テンジンサマノユウトオリ(天神様の言うとおりに)」又は「ウラノテンジンサンニキイタラヨクワカル(裏の天神さんに聞いたらよくわかる)」等をつけて使われた。

また、祖父母である「ジージー」や「バーバー」を使った表現は、主として郡北部の樺・久間田地区から高津瀬地区にかけてみられた。

なお、「ドレニシヨオカナ」が最も一般的であったようで、それを代表例として採録したが、選択枝が二つの場合は「ドチラニシヨオカナ」、三つ以上の場合は「ドレニシヨオカナ」、また人の場合は「ダレニシヨオカナ」等、区分けした異なる言い方もされたようである。

### エ その他

使っている当人の都合の良いところで終わるように、文言の一部を何度も繰り返した場合もあったという。

## 7) 数字以外での十の数え方

### ア 採録した数え方

#### a) 十の数え方

- ・ コノサムライワエライ（：この侍は偉い）
- ・ ボーサンガヘヲコイタ（：坊さんが屁をこいた）
- ・ ボンサンガヘヲコイタ（：坊さんが屁をこいた）

#### b) その他

- ・ 十五の数え方 テンジンサンノモミジワヨイモミジ  
（：天神さんのもみじは良いモミジ）
- ・ 二十の数え方 ボーサン（又は ボンサン）ガヘヲコイタ、ネギサンガ?????  
（：坊さんが屁をこいた、禰宜さん が?????）

### イ 遊びの話

ほとんどの集落

### ウ 遊びと数え方の状況

かくれんぼなどで子が逃げ隠れする時間を確保するため、オニが目を閉じ予め定めた数を数えるが、その際などに使われた子ども達による数字によらず（素早く）数える方法である。

本数え方としては、「ボンサンガヘヲコイタ」や「コノサムライワエライ」をはじめ計3種を採録した。

郡内のほぼ全域で「ボンサンガヘヲコイタ」が使われたほか、鈴鹿市小田町で「コノサムライワエライ」がみられた。

「ボンサンガ〜」は主に男児が使っていた数え方であり、郡内のほぼ全域で既に一般化していたようであるが、そうした数え方を使っていない回答者も少なからずみられた。

また、十五となる数え方として、「テンジンサンノモミジワヨイモミジ」を採録したが、一字余りとなることから、いずれかの発音を数えないようである。

さらに、二十となる数え方として「ボンサンガヘヲコイタ、ネギサンガ〜」と続く表現があったようであるが、最後の部分は採録できなかった。

### エ その他

オニが目を閉じて十数える間にオニに近づいていく遊びである「だるまさんがころんだ」では、主として女兒が「ダルマサンガコロнда」を使い、男児は「ボンサンガヘヲコイタ」を使って遊んでいたという話がみられた。

